

各種調査及びワークショップの概要

1. 生物の生息状況調査
2. アンケート調査
3. 市民ワークショップ

1. 生物の生息状況調査の概要

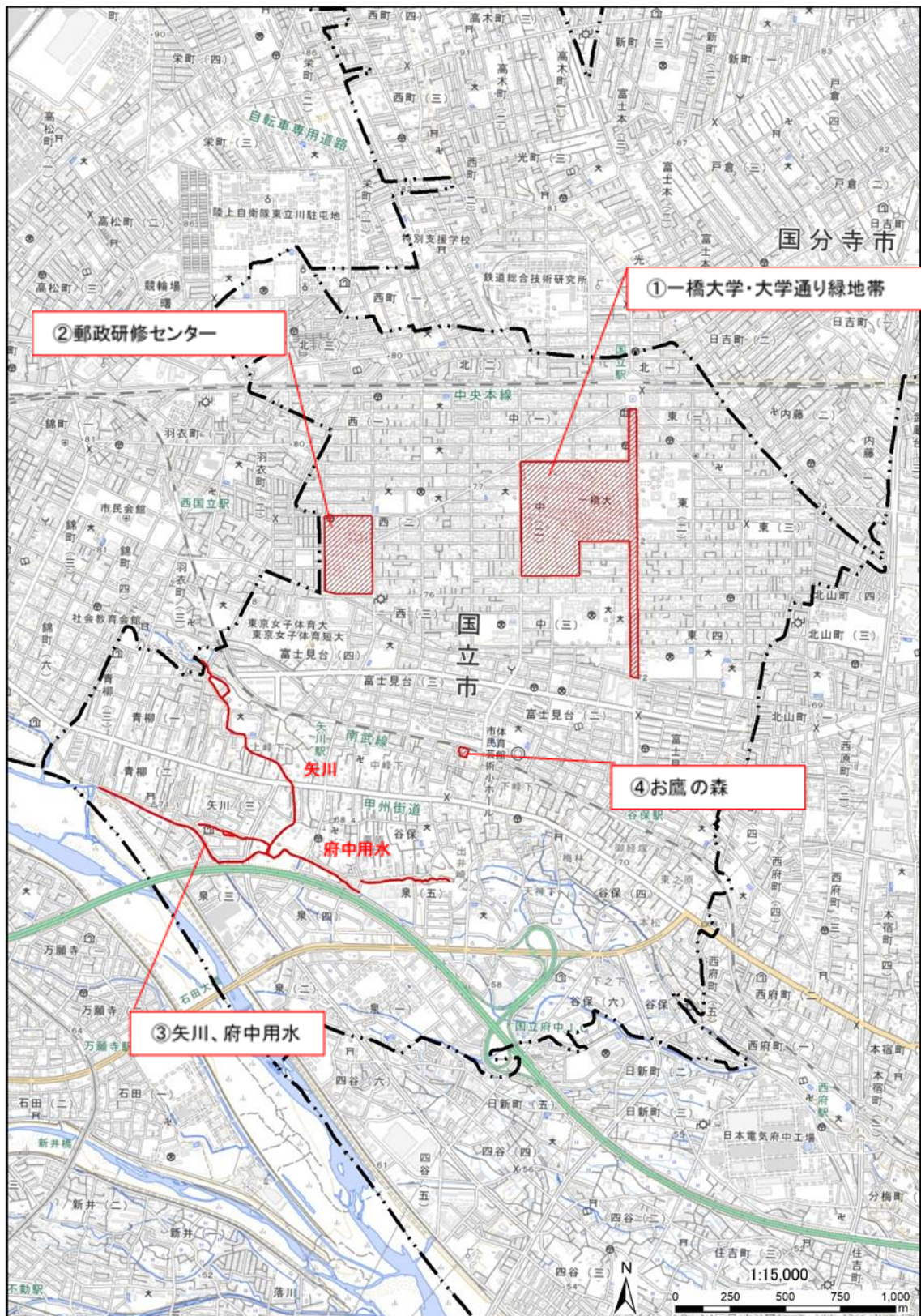
1-1 調査の目的

市内の生物の生息状況の把握を調査することで、2002年に改定した「国立市緑の基本計画」改定及び生物多様性地域戦略の改定に資する基礎資料を得ることを目的とした。

1-2 調査項目及び概要

項目	調査対象地区	調査時期	調査方法	記録項目
植物	①一橋大学・大学通り緑地帯 ②郵政研修センター ③矢川、府中用水 ④お鷹の森	3季 (夏季、秋季、春季)	目視調査及び採集	種別、重要種、特定外来生物の位置
鳥類	同 上	2季 (夏季、冬季)	目視調査、鳴き声	種別、重要種の確認位置、繁殖行動等
昆虫類	同 上	3季 (夏季、秋季、春季)	目視調査及び採集 (スィーピング、ビーティング等)、バイトトラップ、ライトトラップ(ボックス法)、	種別、重要種の確認位置
哺乳類 爬虫類 両生類	同 上	2季 (夏季、秋季)	目視調査(フィールドサイン)、無人カメラ	種別、重要種、特定外来生物の確認位置
魚類・水生生物	①一橋大学(校内の池) ③矢川、府中用水	2季 (夏季、秋季)	タモ網、投網 サデ網	種別、個体数、体長

※調査対象地区は、現行計画策定時に調査した地点を中心に、森林性、草原性の環境のほか、水生生物の生息環境を含む地点を選定した。



調査対象範囲図

1-3 結果概要

<植物>

- 重要種は植栽や保全活動により、増加している。府中用水や矢川にはナガエミクリやエビモなど貴重な水生植物が生育している。
- 外来種の確認種数は大幅に増加している。また、特定外来生物のアレチウリ、オオフサモ、オオカワデシャが生育分布を広げている。

<鳥類>

- 過年度に確認された確認種、重要種には大きな変化はないものと考えられる。
- 特定外来生物としてガビチョウ、ソウシチョウと外来種のホンセイインコが近年に確認され、定着しているものと考えられる。

<哺乳類>

- 過年度の確認種、重要種には変化はない。
- 特定外来生物のアライグマが確認され、定着しているものと考えられる。

<爬虫類>

- 過年度に確認された確認種、重要種、外来種には大きな変化はないものと考えられる。

<両生類>

- 両生類の生息環境に変化はなく、近年になってニホンアカガエルが確認されている。

<昆虫類>

- 重要種の確認の変化は、オサムシ科のキアシマルガタゴミムシなど河川敷のヨシ原など湿地にてバイトトラップにより採取されたもので、調査方法等の違いによる差があるため、概ね変化はないものと考えられる。
- 一方で近年確認がない、ミズカマキリ、コガムシ、シジミガムシの3種については、いずれも水田や池沼等の止水の湿地に生息する種であり、それら環境が減少している可能性がある。
- 温暖化により生息域が北上している種が、近年多く確認されている。

<魚類>

- 平成13年度に確認された重要種のドジョウは近年に確認されず、外来種のドジョウ（中国大陸系統）のみの確認となっており、交雑や競合により駆逐された可能性がある。
- 多摩川には特定外来生物のコクチバスやオヤニラミなど国内移入種が確認されている。

以上をまとめると

- ◆外来種が増え、交雑や競合により、一部の在来種に影響を与えている。
- ◆水田や池沼など止水環境は減少または少ないものとなっている。
- ◆緑環境における樹林に関する種数に変化はないものと考えられる。

<確認されている外来種>

調査で確認され、特に可能であれば駆除等の対策が必要と考えられる種を、環境区分毎に整理した。

区分	環境区分	代表的な場所	特に留意すべき外来種	保全対策
陸域	クヌギ、コナラなどまとまった雑木林	一橋大学、郵政研修センター、桐朋学園、お鷹の森	<植物> アレチウリ、オオキンケイギク	<植物> 種子ができる（6月～10月）前の春季に抜き取りによる駆除が望ましい。特にオオカワヂシャ、オオフサモ、オオカナダモ、コカナダモは根や茎の一部からでも繁殖するため注意が必要。 <鳥類> 現状対策はなく、市民への情報提供など啓発活動。 <哺乳類> 市で実施中の駆除事業等による対策 <昆虫類> 市民への情報提供など啓発活動。
	シラカシ、ケヤキなどのまとまった雑木林（屋敷林）	滝乃川学園、青柳崖線沿い樹林、谷保天満宮、下谷保古墳	<鳥類> ガビチョウ、ソウシチョウ <哺乳類> アライグマ、ハクビシン <昆虫> アカボシゴマダラ	
	連続した大木の街路樹	大学通、さくら通	<植物> アレチウリ、オオキンケイギク	
	河川敷	多摩川河川敷	<植物> アレチウリ、オオキンケイギク <哺乳類> アライグマ	
水域	河川	多摩川	<魚類> コクチバス	<魚類> 市民への情報提供など啓発活動。 コクチバスは釣りによる再放流しないなどの啓発。
	湧水と湧水河川	矢川、ママ湧水公園	<植物> オオカワヂシャ	
	用水路	府中用水	<植物> オオカワヂシャ、オオフサモ、オオカナダモ、コカナダモ <魚類> ドジョウ（中国大陸系統）	

動植物の生息・生育環境への対応方針について（案）

環境区分	該当する箇所	動植物の生息・生育環境：ハビタット	依存する重要種や注目種（現状）	課題と対応策	対策により生息・生育環境の安定や増進が期待できる種
クヌギ、コナラなどまとまった雑木林	一橋大学、郵政研修センター、お鷹の森桐朋学園	まとまった樹林（高木の雑木林）（コナラ、クヌギ、アカマツ）	鳥類：ツミ、オオタカ、アオゲラ、エナガなど 哺乳類：タヌキ 昆虫類：ウバタマムシ、ヤマトタマムシ、モンスズメバチ、カブトムシ、クワガタ 類	高木、老齢木の倒木やナラ枯れなどに対し、今後管理が必要である。このため計画的な樹木の更新が必要と考える。特に一橋大学構内などのコナラ、クヌギ、アカマツは国立市内では貴重な雑木林となっており、同種の樹木の植栽などによる維持が望まれる。	鳥類：ツミ、オオタカ、アオゲラ 昆虫類：ウバタマムシ、ヤマトタマムシ、カブトムシ、クワガタ 類
		落葉樹林の林床（階層構造がある：管理されていない）	哺乳類：タヌキ 昆虫類：モンスズメバチ、カブトムシ、クワガタ 類	現状、人の手を掛けられない環境として、国立市内では貴重な環境となっているが、人が入れないような鬱蒼した場合は逆にササ類など単一の植生となるため、数年間隔単位の間伐や除草が必要である。	鳥類：ウグイス 植物：エビネ、キンラン、ササバギンラン（自生） 昆虫類：モンスズメバチ、カブトムシ、クワガタ 類
		落葉樹林の林床（管理された林床）	植物：エビネ、キンラン、ギンラン、ササバギンラン	林床は単調な環境で多様な昆虫類や爬虫類等の生息場としては適していない。このため、一部を伐採した樹木でエコスタックを作ることで、昆虫や爬虫類の生息場を創出する。	植物：自生：エビネ、キンラン、ササバギンラン（自生） 爬虫類：ヒバカリなどヘビ類 昆虫類：モンスズメバチ、カブトムシ、クワガタ 類
		樹林と水辺（池）	両生類：アズマヒキガエル、ニホンアマガエル 昆虫類：マユタテアカネ、ミヤマアカネ	人工の池は堆積物による富栄養化が問題である（一橋大学の池は本年度対策済み）。	両生類：アズマヒキガエル、ニホンアマガエル 昆虫類：マユタテアカネ、ミヤマアカネ
		花壇や植込みなどの植栽	植物：コムラサキ、アマドコロ、ウマノスズクサ カントウタンポポ、シロバナタンポポ 爬虫類：ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ	鑑賞用の草花が主であり、一部の昆虫類のみが利用する。このため、チョウ類の食草や鳥類の餌となる低木を選択的に一部で植栽することが望ましい。	鳥類：カケス、シメ、ヒヨドリ、カワラヒワ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、コゲラなど木の実を食べる鳥類 昆虫：アゲハチョウなどチョウ類
シラカシ、ケヤキなどのまとまった雑木林（屋敷林）	滝乃川学園、南養寺青柳崖線沿い樹林谷保天満宮下谷保古墳谷保緑地	まとまった樹林（高木）（シラカシ、ケヤキ）	鳥類：アオバト、アオバズク、モズ 哺乳類：キツネ、タヌキ 植物：自生：エビネ、キツネノカミソリ、ニリンソウ（自生） 昆虫類：ヒラタクワガタ本土亜種、ヤマトタマムシ	高木、老齢木の倒木やナラ枯れなどに対し、今後管理が必要である。このため計画的な樹木の更新が必要と考える。特に青柳崖線沿いは潜在植生のシラカシ群集からなり、樹木の更新や植栽を行う場合は潜在植生となるシラカシ、シロダモなどを選択的に植栽することが望ましい。	鳥類：アオゲラ、エナガ、ジョウビタキ 哺乳類：キツネ、タヌキ 植物：エビネ、キツネノカミソリ、ニリンソウ（自生） 昆虫類：ヒラタクワガタ本土亜種、ヤマトタマムシ
		水辺（河川・用水路）と河畔林	植物：自生：コギシギシ 両生類：ニホンアカガエル	特に課題はなく、ニホンアカガエルなど樹林に生息し、水辺に産卵する種などの希少な場として保全することが望ましい。	植物：コギシギシ 両生類：ニホンアカガエル
		花壇や植込みなどの植栽	爬虫類：ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ	鑑賞用の草花が主であり、一部の昆虫類のみが利用する。このため、チョウ類の食草や鳥類の餌となる低木を選択的に一部で植栽することが望ましい。	鳥類：カケス、シメ、ヒヨドリ、カワラヒワ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、コゲラなど木の実を食べる鳥類 昆虫：アゲハチョウなどチョウ類
連続した大木の街路樹	大学通、さくら通富士見台団地	高木の街路樹	鳥類：アオゲラ、エナガ、ジョウビタキ、オナガ、ウグイス	高木、老齢木の倒木などに対し、今後も管理が必要である。このため計画的な樹木の更新が必要と考える。更新には連続性や景観に考慮し、老齢木化する前に計画的な樹木の更新が望まれる。	鳥類：アオゲラ、エナガ、ジョウビタキ、オナガ、ウグイス
		花壇や植込み	植物：フジバカマ（自生）、シラン（植栽） 爬虫類：ヒガシニホントカゲ	鑑賞用の草花が主であり、一部の昆虫類のみが利用する。このため、チョウ類の食草や鳥類の餌となる低木を選択的に一部で植栽することが望ましい。	鳥類：カケス、シメ、ヒヨドリ、カワラヒワ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、コゲラなど木の実を食べる鳥類 昆虫：アゲハチョウなどチョウ類
湧水を水源とする小河川	矢川、ママ湧水公園等	湧水を水源とする小河川	植物：ミゾホオズキ、ヤナギモ、ナガエミクリ、セキシウモ（自生） 鳥類：コサギ、カワセミ、セグロセキレイ 両生類：ニホンアカガエル 昆虫類：オオアメンボ、ゲンジボタル 魚類：オイカワ、アブラハヤ、ホトケドジョウ 底生動物：サワガニ、ヤマサナエ	清流に多くの貴重な生物の生息・生育環境となっており、現状を保全することが望まれる。一方、オオカワヂシャやオランダガラシ（クレソン）など外来種の繁茂しており、在来水生植物への影響が懸念される。対策には継続的な駆除が必要なことから、市民への啓発や協力が必要である。	植物：ミゾホオズキ、ヤナギモ、ナガエミクリ、セキシウモ（自生）
用水路	府中用水	流れの緩やかな水路	植物：エビモ、ササバモ、ヤナギモ、ナガエミクリ（自生）など 哺乳類：イタチ 鳥類：コサギ、カワセミ 昆虫類：マユタテアカネ、ミヤマアカネ、オオアメンボなど 魚類：フナ属、オイカワ、ミナミメダカ	多摩川との連続性から、緩やかな流れに生息・生育する貴重な動植物の生息・生育環境となっており、現状を保全することが望まれる。一方、矢川と同様にオオカナダモなど外来水生植物が繁茂しており、在来水生植物への影響が懸念される。対策には継続的な駆除が必要なことから、市民への啓発や協力が必要である。	植物：エビモ、ササバモ、ヤナギモ、ナガエミクリ（自生）

2. アンケート調査の概要

2-1 調査の目的

市民の緑に対する関心や「緑の質」についての認識、自然環境に関するニーズ、地域性等を把握し、さらに緑の役割・機能について把握することを目的とした。

2-2 調査対象

18歳以上の市民 2,000 名（住民基本台帳から無作為抽出）

2-3 調査手法

市が実施した市民の無作為抽出結果に基づき、郵送による調査を実施した。また、QRコードによるWEB回答ページも作成し、WEBによる回答もできるものとした。

2-4 調査実施日

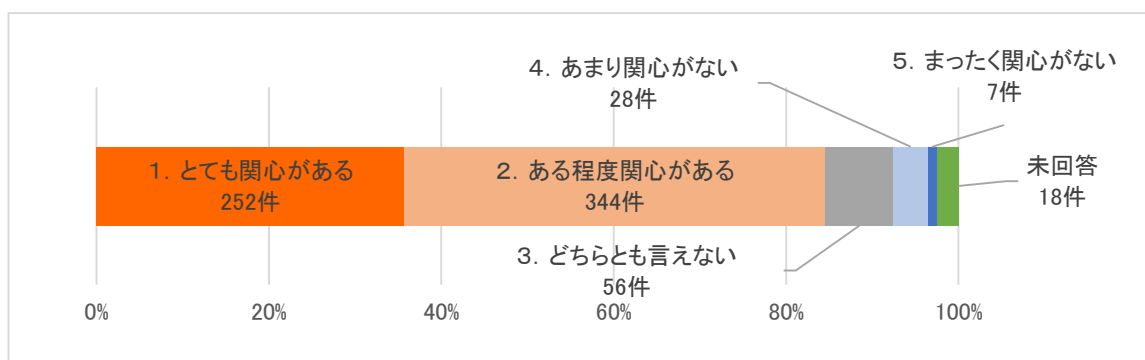
令和6年1月22日～令和6年2月5日

2-5 回収率

回答数：705 件 回収率：35.2%

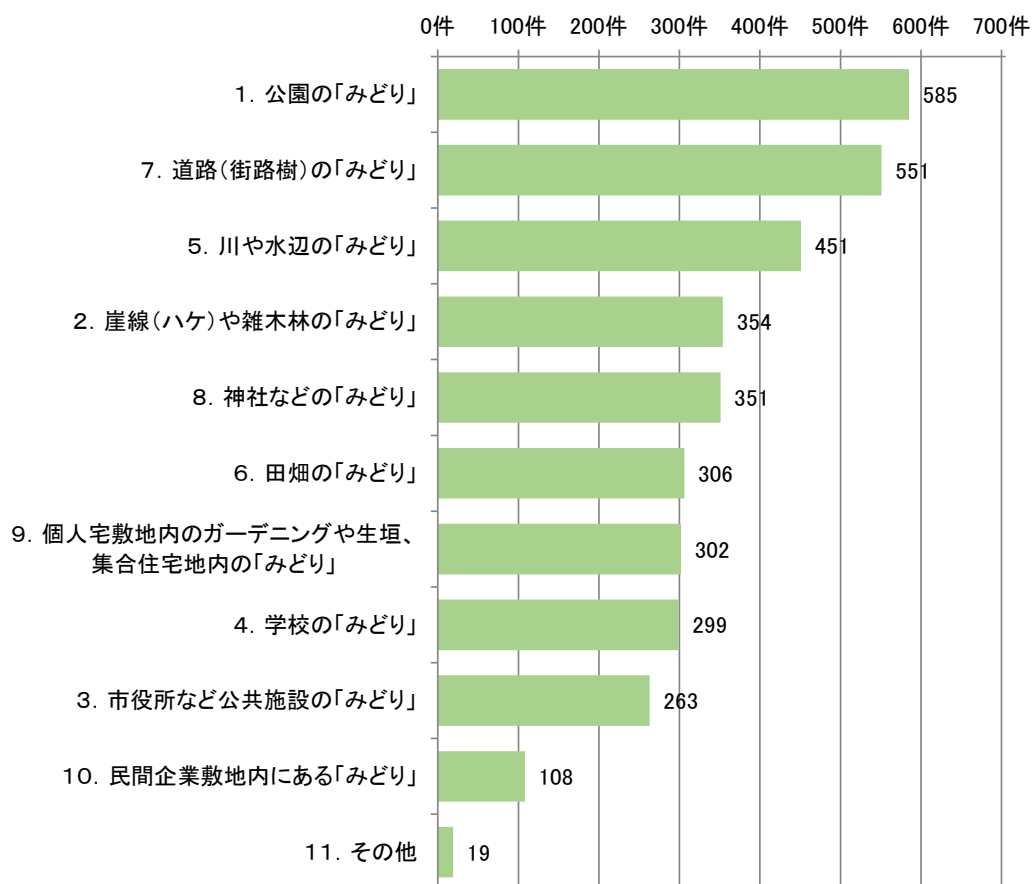
2-6 アンケート結果概要抜粋

2-6-1 あなたは「みどり」に関心がありますか。



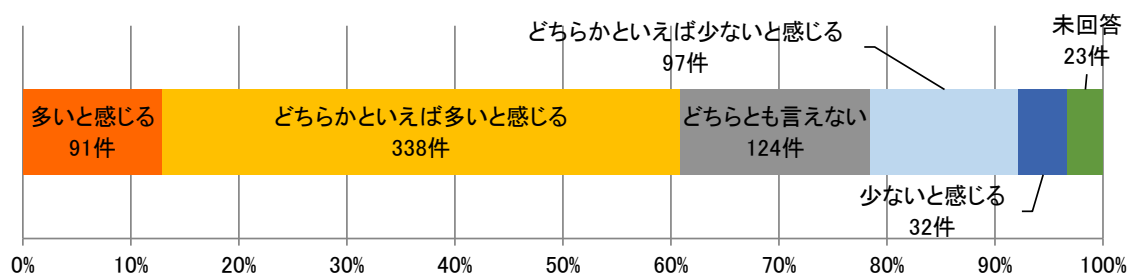
「みどり」への関心 (n=705)

2-6-2 あなたにとって関心のある「みどり」とは何ですか。＜あてはまるものすべてに○印＞



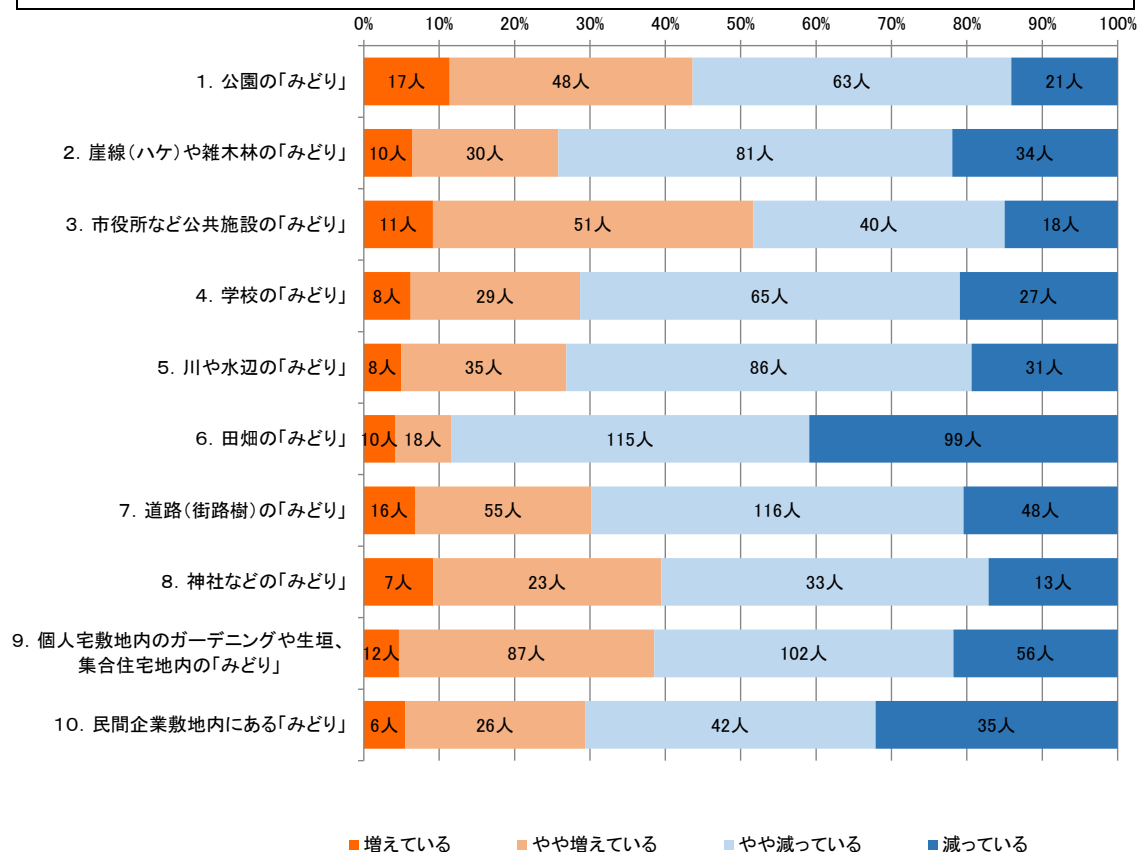
関心のある「みどり」(n=705)

2-6-3 あなたのお住いの地域の「みどり」の量についてどのように感じていますか。

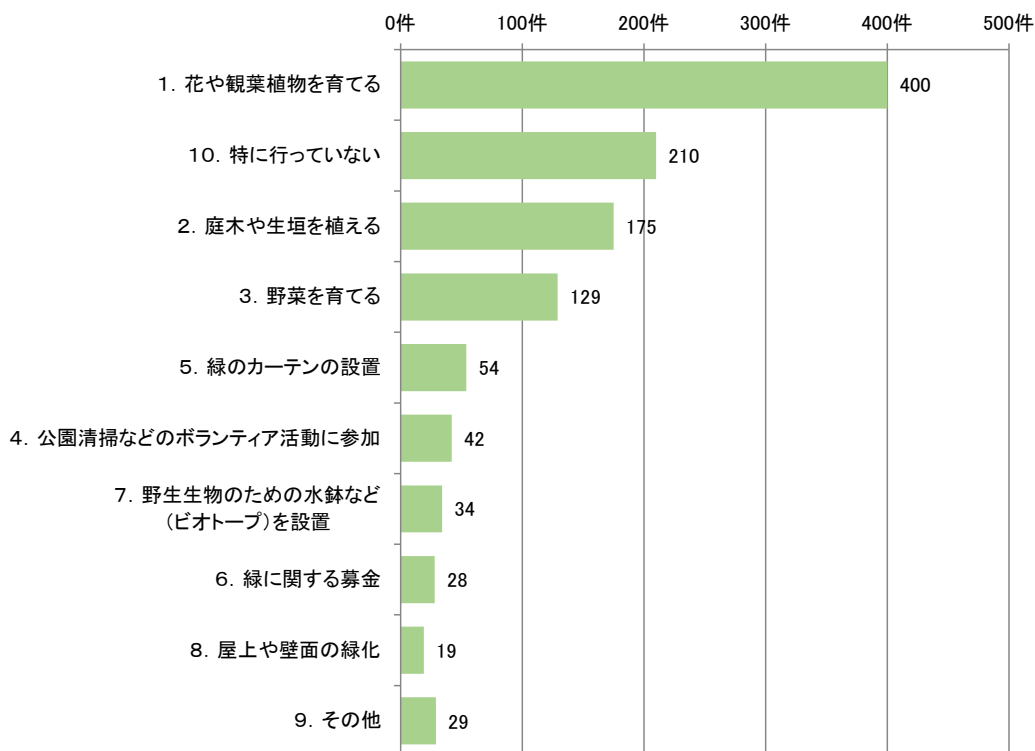


住んでいる地域の「みどり」の量 (n=705)

2-6-4 国立市の「みどり」の量は、10年前（居住年数が10年未満の場合は、居住された時）と比べて増えていると思いますか。＜それぞれ1つに○印＞



2-6-5 あなたが行っている「みどり」に関する取り組みは何ですか。＜あてはまるものすべてに○印＞



2-6-6 「みどり」に関する取り組みを特に行っていない理由（自由回答）

時間がない	43 件
場所がない	23 件
興味がない	18 件
体の問題	10 件
機会がない	9 件
苦手	8 件
経済的な理由	6 件
わからない	6 件
年齢	4 件
虫	4 件

2-6-7 どうすれば「みどり」に関心を持てたり、「みどり」に関する取り組みを実施したりできるようになると思いますか。（自由回答）

情報の提供（イベント告知、「みどり」に関する取り組み等）・興味を持たせる取り組みを実施する	65 件
イベント等の開催など「場」の提供	49 件
ボランティア活動に参加する機会	9 件
子供たちに伝える、体験させる、教育する等	37 件
公園、芝生広場等の整備や助成金など	38 件
種子や苗の無料配布	8 件
法律などでの規制（建築の制限や緑化率の義務化等）	4 件

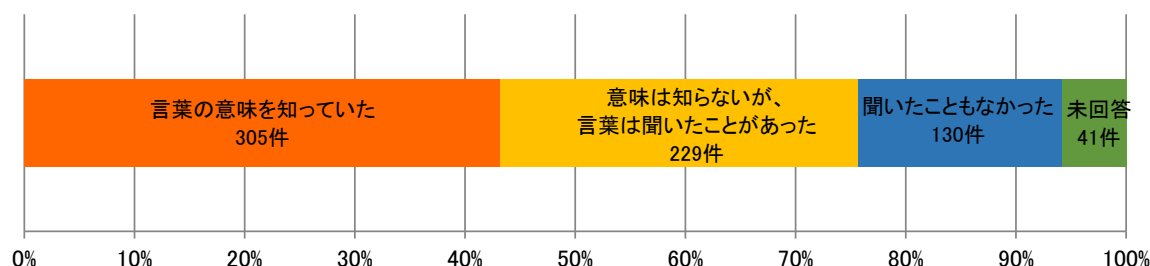
【必要な要素】

時間的、経済的な「ゆとり」	14 件
---------------	------

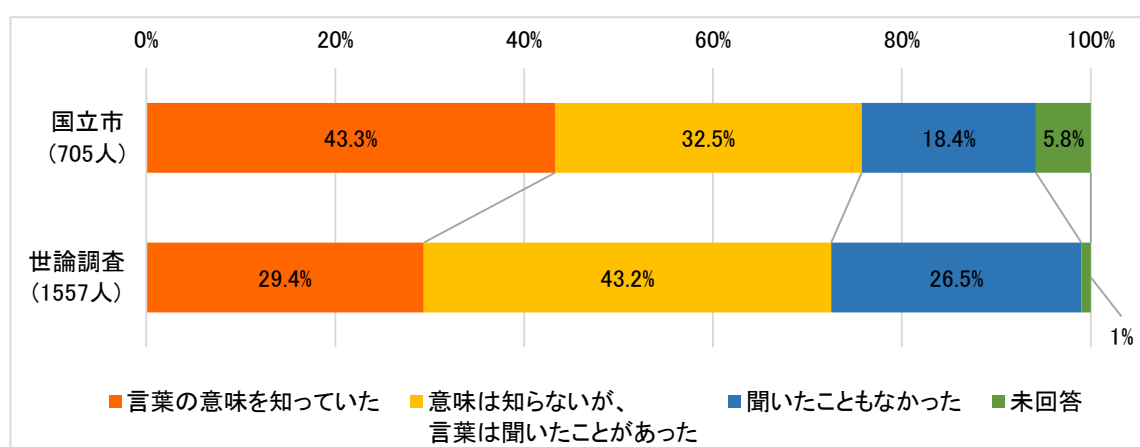
【その他】

季節の植物などで関心を持ってもらう
 身近に感じられるようにする
 知ること（花を植えて、花言葉や由来などをつける、地域の動植物の情報、植物の名前など）

2-6-8 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていましたか。



生物多様性の認知度 (n=705)



資料：「生物多様性に関する世論調査」（内閣府）<https://survey.gov-online.go.jp/hutai/r04/r04->

生物多様性の認知度（世論調査との比較）(n=705)

【アンケート結果について】

国立市民の「みどり」に対する関心は高く、「とても関心がある」が35.7%、「ある程度関心がある」が48.8%で、84.5%が関心を持っている結果となっている。中でも、公園の「みどり」や道路（街路樹）の「みどり」のような比較的、身近にある大きな「みどり」への関心が高い傾向がみられた。

「みどり」の量における10年の変化に関しては、「変わらない」と感じている人が大部分である。一方、「みどり」の量に変化を感じている人の割合は、公園・道路（街路樹）や崖線・雑木林、川・水辺や田畑、学校や民有地も含めて、多くの場所において「減っている」と感じている人が圧倒的に多くなっている。

「みどり」に関する取り組みでは、「花や観葉植物を育てる」が最も多く、回答者の半数を超えているのに対し、2番目に多かったのが「特に行っていない」であり、取り組んでいない理由は、時間がない、場所がない（アパートやマンション）、機会がない、関心がないなどの他、やり方がわからないなどである。

「みどり」への関心が高い人の中においても、「取り組みたい行動はあるが、行動に移せ

ていない」が回答者の一定数を占めており、やる気はあっても**実際行動に移すのが難しいことが示唆**されたと捉えることができる。

「みどり」への関心を高めるためには、**イベントの開催や情報の提供など、「きっかけ」や「場」を必要としている**一方で、時間的、経済的な「ゆとり」が不可欠な条件として挙げられる。

国立市民は、世論調査の結果よりも自然に対する関心が高く「生物多様性」という言葉についても、意味を知っている割合等も高くなっている。

市民の「みどり」のニーズという観点では、自由回答で、「みどり」に関心のある場所と言えば「大学通り」や「さくら通り」、公園や街路樹と回答しており、多くの市民が、国立の「みどり」を多い方だと感じており、**「みどり」や「自然」に対する関心も高い傾向がみられた。**

しかしながら、「みどり」に関する取り組みでは、「特に行っていない」と回答した人が2番目に多かったが、その理由は「時間」や「場所」が無い、「興味」が無いという回答件数が多い。その行動を制限する理由は、体力や時間・費用の制限とともに、「何をしたらよいのか、よくわからないこと」も非常に多い結果となった。

市民の取り組み、行動を促進するために、まずは、**情報の提供を行い、「みどり」や「生物多様性」、「自然」について、十分に理解してもらうとともに、イベントや「場」の提供を行い、市民がそれぞれの形で取り組み、「みどり」の質や、生物多様性に配慮した「みどり」の機能を実感してもらえよう**にしてい**くことが大切**である。

3. 市民ワークショップの概要

3-1 ワークショップ開催目的

国立市における「緑の基本計画」を改定するにあたり、「緑」に対する市民のご意見・ご意向を把握するため、声を直接お聞きする場として、「市民ワークショップ」を開催した。

3-2 開催概要

国立市 第1回市民ワークショップ

【開催概要】

- ・日付 : 令和6年7月15日 (月・祝)
- ・時間 : 13:30~16:00
- ・会場 : 矢川プラス 多目的ホール
- ・参加者 : 19名 (傍聴者7名)

・検討テーマ

【テーマ1】市内の好きな緑やおすすめ場所について

【テーマ2】市内の緑について



国立市 第2回市民ワークショップ

【開催概要】

- ・日付 : 令和6年8月24日 (土)
- ・時間 : 9:30~12:00
- ・会場 : 国立市役所 地下打合せスペース
- ・参加者 : 17名 (傍聴者2名)

・検討テーマ

【テーマ1】具体的な対策・活用等について

【テーマ2】市民参加方法について



第3回市民ワークショップ 検討テーマ (案)

【テーマ】

緑の基本計画改定の方向性について意見交換



3-3 ワークショップの主な意見

【第1回市民ワークショップ】

①市内の好きな緑やおすすめの場所について

好きな場所・おすすめの場所	アピールポイント等
大学通り・緑地広場・桜通り	・並木道が綺麗で癒される。 ・花見、散歩によい。緑地に入って花見ができるようになった。 ・桜通りの木が植え替えられて、色が濃い桜が咲くのが良い。 ・国立高校から一中の北側まで桜並木が続き、見通しがよい。
城山公園	・山、畑、田んぼがある。 ・子どもが遊べる。広場で BBQ ができる。 ・キンラン、キツネノカミソリが生息している。
桐朋学園（みや林）	・ツミ等の鳥類が見られる。 ・鳥、猛禽類が生息している。
一橋大学	・散歩に最適。 ・お花がキレイ。 ・猛禽類や多種の鳥類が見られる。
ママ下湧水公園	・湧き水周りの緑。 ・ハケの緑と湧き水。 ・都内でも有数の湧水量。魚とりができる。

②市内の緑についての意見（もっとこうなってほしい等）

項目	意見
植物	・桜は国立のシンボルでもあるので、今後も桜を維持したい。 ・市内の緑が減っているので、住宅地の緑を増やしていく。 ・小規模緑地の樹木の保全
動物	・大学通りの一橋大学前のクヌギの木が伐採されたことにより、ウグイスがいなくなった。 ・ハクビシンが出没する。 ・ママ下湧水公園に捨てられている外来種である。
公園や河川敷等	・北第一公園は緑がきれいだが草取りをしてほしい。 ・河川敷の草刈りの頻度をあげてほしい。バッタの生息に関わる。 ・崖線（ハケ）の緑の連続性の確保が重要である。
ボランティア活動	・ボランティアの人数を増やしたい。
その他	・国立市だけでなく近隣市を含めて広域で生態系について考えてほしい ・緑の情報を市が集約し、団体に情報を渡す等の情報発信 ・環境教育

【第2回市民ワークショップ】

①具体的な対策・活用等について		②市民参加方法について
課題	具体的な対策・活用等	市民参加方法
【ボランティア活動】 ・花壇、団地等の維持管理作業が大変 ・ボランティアの限界	・一年草にこだわらず管理に手間がかからない方法（多年草） ・SNS で団体活動の情報発信 ・市民ボランティアとの連携	・広報内容見直し（ボランティア情報入れる） ・子供が興味のあることを深掘りできるようにする ・参加者の要求に合った企画をする事で広げる
【情報発信】 ・市民参加方法の情報少ない ・緑が好きな頑張っている個人の方へも支援して欲しい ・イベント依頼が多いが、市からの補助があると助かる ・緑を楽しむレベルに合わせて緑への認識を深めていく ・情報共有 ・共有の管理者 ・市民活動の共有 ・ボランティアの負担が大きい ・活動が知られていない	・回覧板、SNS で周知 ・情報を市が集約→活動団体に渡す ・知らない情報が多い（新発見・気づき） ・環境教育について市からの周知 ・子供が楽しい姿を SNS ・YouTube r（子供が大人を巻き込む）→市の HP にアップ、学校教育、SNS 活用 ・不動産の情報とリンク→緑が豊かな国立情報の発信 ・一橋大学を資源として市民と共有 ・「いいね！国立」の Web サイトとコラボ ・自分の家の周囲について環境整備→国立の価値アップ ・季節ごとにまとめる仕組みを行政や学校が発信 ・情報の発信、発表	・くにたち緑のサポーター養成塾の拡張（市民を巻き込む機会を増やす） ・バッチ制度（講習→実践）、ライセンスによる参加の見える化 ・国立市ガイドライン（大学通りなど、市民が国立ブランドとしてゆるく共有し統一感を出す） ・街の緑のコンテスト <きっかけづくり> 市民が参加するためには情報が知りたい。まずは情報を！やっていることを知らせる。 <具体的に> 花と緑のまちづくりをいろんなところでやってみる（コミュニティガーデン）、公園内の花壇の開放等